

## 第6分科会

### ツリークライミング in 阿蘇 体験会

～樹上の世界へようこそ! 木に登れば君もきっと阿蘇の自然と友達になれる～

コーディネーター：濱田宏陽

ゲスト：中村真也 西本隆博 藤本浩二 淵上康幸

スタッフ：岡村翔 木佐貫徹 田上一幸 田中希帆

参加者：青木菜保子 岩本葉月 瀬角龍博 鶴岡誠也



#### コンセプト

農山村のどこにでもある樹木をフィールドに、樹木や森と友達になることを目指す。

それにより、「ツリークライミング」という人と樹木のつながりを切り口に、樹木と動植物、樹木と人々の暮らしの関係などにも焦点をあて、「人と自然のつながり」、「時空を超えた世代間のつながり」に気づくきっかけを作る。

## プログラムデザイン

- 8:50 1F ロビー集合  
9:00 阿蘇青少年交流の家 出発  
9:20 なみの高原やすらぎ交流館 到着  
9:25 講師・参加者紹介  
9:45 ツリークライミング スタッフ紹介  
装備の着用（サドル、ヘルメット）  
もくもく体操  
デモンストレーション  
10:20 クライミング体験  
11:55 午前のまとめ  
12:00 昼食  
13:00 DVD 鑑賞（ツリークライミングの歴史と背景）  
13:40 もくもく体操  
デモンストレーション（ロープのかけ方とツリーポート）  
14:00 クライミング体験（ツリーポート、ロープ掛け、クライミング方法について学ぶ）  
15:30 片づけ  
15:45 まとめ 分科会終了  
16:10 なみの高原やすらぎ交流館 出発  
17:30 阿蘇青少年交流の家 到着

## 内容

まず体験したのが、「もくもく体操」という木の成長などに焦点を当て、それを体で表現する体操である。また、コーディネーターの濱田さんが「屋久島にある縄文杉は、夜になったら動き始めるのです。」と話をされ、「ジョウモン」と呟きながら、相撲のシコのような動きをし、体を温めるとともに、参加者の固さをほぐした。



屋久島にある縄文杉は、夜になったら動き始めるのです。

ジョウモン！



ジョウモン！

ジョウモン！

午前中のツリークライミング体験は、楽しむこと、木に親しむことを目的に構成されており、登り方の説明などがなされた後に、ツリークライミングの有資格者のゲストが参加者一人一人に付くという、絶好な条件で各自体験を開始した。参加者は、ゲストよりロープの結び目の役割や、登り方のヒントを得ながらクライミングに挑戦していた。



午後は、ツリークライミングの歴史、現状を知ることが目的にDVDの鑑賞から始まった。コーディネーターの濱田さんが出演したテレビ番組で、幼稚園児がツリークライミングに挑戦する映像などがあった。





午後の体験では、ツリークライミング的に、木にロープをかけるために使うスンは糸の先に錘が付いており、振り子のばないのだが、上手くいったときは非常象的であった。

また、体験会の途中より、普通に登る木にハンモックのようなものをかけたツ立ちをしたり、体の反動で登るクライミング方法を体験したりした。



を実際に行うための技術を知ることを目ローライン投げを体験した。スローライ要領で投げる。容易には意図した所に飛に快感で参加者が大喜びしていた姿が印

こと以外の楽しみ方を知ingことを目的に、リーボートや、クライミングの途中で逆



## まとめ

ツリークライミングは、登る木に対して、活動を始めるときは「よろしくお願ひします」、活動が終わったときは「ありがとうございました」というように「森に感謝する」ことが根底にある体験である。活動の中で、ただ木に登って楽しいということだけではなく、木の上でほっと辺りの景色を見渡していると、自分たちの生活が木や森などの自然に支えられていること、そこから空気・水・食べ物・材木といったように、たくさんの恵みを受けていることを感じてもらえる体験である。

また、今こうやって自分たちがツリークライミングを体験できるのは、自分たちより前の世代、さらに前の世代の方たちが森を守ってくれたからで、私たちはそのバトンを受け継いで、次の世代に渡すために、豊かな自然を残していかなければならないことを痛感した。同時に、自然の豊かさや素晴らしさをより多くの人に知ってもらい、自然を通して、時空を超えた多くの人がつながっていることを認識する事のできる体験であるとも思う。

## 感想

全体験を通して参加者からは、かなり好評であった。「また登りたい」や「資格を取りたい」などの声も上がっており、今後の展開にも期待できる。

レクリエーションで行うツリークライミングは、組織設立から約30年と、まだまだ歴史が浅い。よって、日本での活動もようやく10年を経過したばかりである。しかし、今回ツリークライミングを体験した参加者は、その魅力に気づき、無限の可能性に興味を持ったようであった。コーディネーターの濱田さんは「森や自然に、温かい気持ち・楽しい気持ち・苦い気持ちを貯金し、貯金したものを取り崩すことで、それらを他の人と共有できる。」と話されていた。私たちも森や自然に関わるものとして、そのフィールドを使うだけでなく、「感謝」や「恩返し」の心を森に貯金していくべきと感じた。